

放射線災害・医科学研究拠点

平成 28 (2016) 年 4 月に広島大学・長崎大学・福島県立医科大学の 3 つの大学によるネットワーク型共同利用・共同研究拠点として設置された「放射線災害・医科学研究拠点」の第 1 回ワークショップを、前日の第 4 回国際シンポジウムに続いて、令和 2 (2020) 年 2 月 13 日に広島大学広仁会館において開催しました。

本ワークショップは、同拠点が採択した共同利用・共同研究課題 6 題・トライアングルプロジェクト 3 題の各報告と、2 題の特別講演が行われました。本ワークショップでは、国際シンポジウムに参加した海外の研究者を含む 95 名の参加者を迎えて、終始活発な質疑、討論が行われました。

開会挨拶

放射線災害・医科学研究拠点本部長・広島大学原爆放射線医科学研究所長の田代聡先生より本ワークショップの主旨が説明されました。

来賓挨拶

文部科学省研究振興局学術機関課の西井知紀課長よりご挨拶を頂きました。

共同利用・共同研究課題：座長 広島大学・神沼修、長崎大学・中島正洋

本セクションでは、まず電力中央研究所 原子力技術研究所 浜田信行主任研究員から、「野生型マウスを用いた循環器への放射線影響の解析」について、老齢、ApoE^{-/-}マウスを用いて、大動脈壁の変化を生化学的解析や電子顕微鏡を用いた詳細な解析と放射線照射による影響について報告されました。次に国立がん研究センター研究所 吉岡研一主任研究員は「低線量率放射線照射による

第 1 回ワークショップを開催

ゲノム不安定性に与える影響の解析」について、放射線照射回数による DSBs の発生の違いや、線量率変化による影響について報告されました。次に大分県立看護科学大学 環境保健学研究室 小嶋光明准教授より「放射線誘発マウス急性骨髄性白血病の起因となる Sfp1/PU.1 遺伝子変異の線量率依存性」について、マウス造血幹細胞を用いた線量率効果と遺伝子変異の解析結果が報告されました。次に長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 田代将人助教は「放射性同位体を用いた肺アスペルギルス症の新たな治療戦略の開発」について、アスペルギルスの血管侵襲性を利用した、MAA (大凝集アルブミン)⁹⁹Tc を用いた新しい診断法について報告されました。次に横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター (元環境情報研究院客員准教授) 竹田宜人先生より「食品に含まれる放射性物質への態度と行動に関する研究」について Macromill 社のオンライン質問回答のデータを用いて、「リスクコミュニケーション場参加経験」と「食品摂取」との関係を検討した結果が報告されました。最後に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 佐能俊紀大学院生より「放射線災害後の生活習慣や心理社会的因子とその後の循環器疾患発症との関連」について、避難者、精神的苦痛、トラウマ反応等の条件と循環器疾患、脳卒中発症との関連を解析した結果が報告されました。

トライアングルプロジェクト：座長 福島県立医科大学・長谷川有史

本セクションでは、まず広島大学原爆放射線医科学研究所 笹谷めぐみ准教授より「組織幹細胞動態を基軸としたモデル動物における線量率効果

の研究」について $Apc^{min/+}$ マウス、 $B6-F_1 min$ マウス等を用いて線量率効果の検討、被ばく時年齢の影響について結果が報告されました。次に広島大学原爆放射線医科学研究所 東幸仁教授より、「緊急被ばくに対する再生医療体制の確立」について、再生医療の技術の開発、人材育成、ネットワークの形成について、自施設での治験を提示し、現状と今後の展望について報告されました。最後に福島県立医科大学医学部 大葉隆助教より「原発事故後における健康と Well-being のモニタリングへの市民参加の効果に関する研究」について、stakeholder のための SHAMISEN SINGS project、様々な mobile application が紹介され、現在作成中の application について報告されました。

特別講演：座長 広島大学・田代聡（拠点本部長）

本ワークショップの特別セッションとして、他の共同利用・共同研究拠点の本部長2名にお越しいただき、拠点研究の課題と展望についてご講演いただきました。

まず、物質・デバイス領域共同研究拠点本部長・東北大学多元物質科学研究所長の村松淳司先生より、「物質・デバイス領域共同研究拠点と放射線災害・医科学研究拠点との緩やかな連携への期待

という演題で、物質・デバイス領域共同研究拠点（5施設ネットワーク）の現状、特にダイナミックアライアンスによる研究力強化の現状、人材育成状況、海外機関との連携等について紹介され、それらがイノベーション促進、資金調達促進に繋がっているとのご報告をいただきました。

次に放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点本部長・筑波大学アイソトープ環境動態研究センター長の恩田裕一先生より、「『放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点』について」という演題で、放射能環境研究分野の多様性・複雑性を背景に放射性物質の拡散輸送沈着移行過程の研究解明とその影響を評価するとともに、機関横断的連携を通じ、Radioecology、グローバルフォールアウトを利用した研究、放射線核種を用いたトレーシング研究等の将来性についてご報告いただきました。

閉会挨拶

放射線災害・医科学研究拠点副本部長・長崎大学原爆後障害医療研究所長の宮崎泰司先生より閉会の挨拶があり、第1回ワークショップが無事終了しました。

（文責：廣橋伸之）

